

<情報開示に関する事項>

設置者に関する情報	
①設置者の法人種別、名称並びに主たる事務所の所在地及び連絡先	社会福祉法人幸清会 〒049-5832 北海道虻田郡洞爺湖町成香109-18 TEL 0142-82-3325 / FAX 0142-82-3125
②法人の代表者氏名	理事長 大久保 幸積
③実務者養成施設以外の実施事業	第1種社会福祉事業 (イ) 養護老人ホームの経営 (ロ) 特別養護老人ホームの経営 (ハ) 軽費老人ホームの経営 第2種社会福祉事業 (イ) 老人デイサービス事業の経営 (ロ) 老人短期入所事業の経営 (ハ) 無料または低額介護老人保健施設利用事業の経営 (ニ) 老人居宅介護等事業の経営 (ホ) 認知症対応型老人共同生活援助事業の経営 (ヘ) 障害福祉サービス事業の経営 (ト) 地域活動支援センターの経営 (チ) 小規模多機能型居宅介護事業の経営 研修事業(認知症介護実践研修、認知症介護実践リーダー研修、認知症対応型サービス事業管理者研修、介護職員初任者研修)
④財務諸表	当法人ホームページ法人概要の情報開示をご覧ください。
実務者養成施設に関する情報	
①介護福祉士養成施設の名称、住所及び連絡先	社会福祉法人幸清会 実務者研修 通信科 〒049-5821 北海道虻田郡洞爺湖町川東80-16 TEL 0142-82-4710 / FAX 0142-82-4720
②介護福祉士養成施設の代表者の氏名	社会福祉法人幸清会 事務局長 大久保 有慶
③介護福祉士養成施設の開設年月日	平成29年9月1日
④学則	添付書類をご覧ください
⑤介護福祉士養成施設の研修施設等の設備の概要	①財田の社会場 北海道虻田郡洞爺湖町川東80-16 TEL 0142-82-4710 / FAX 0142-82-4720 ②ふるりの丘会場

	<p>北海道虻田郡洞爺湖町清水 4 3 4 TEL 0142-76-4309 / FAX 0142-76-4805</p> <p>③湘南会場 北海道伊達市松ヶ枝町 1 5 7 - 1 1 0 TEL 0142-22-1200 / FAX 0142-25-1300</p> <p>④みたらの社会場 北海道室蘭市絵鞆町 2 - 2 2 - 1 TEL 0143-26-2700 / FAX 0142-25-1300</p> <p>教育用機械機器及び模型の目録 添付書類をご覧ください</p>
<p>養成課程に関する情報</p>	
<p>①養成課程のスケジュール (期間、日程、時間数等)</p>	<p>①別表 「社会福祉法人幸清会 実務者研修通信科学習進度計画 (無資格者・初任者研修修了者・訪問介護員 2 級)</p>
<p>②定員 30名</p>	<p>前期：毎年 9 月から 2 月 (6 ヶ月) 後期：毎年 3 月から 8 月 (6 ヶ月)</p>
<p>③受講までの流れ</p>	<p>①入学志願者は電話でお問合せいただき、指定の期日までに本校所定の書類に必要事項を記入し、郵送又は F A X で応募してください。 こちらで保有資格等確認の上、先着順に受付・受講決定を行い、定員に達した場合は締め切りとしますが、若干名の待機者を設けます。</p> <p>②受講決定後、期日までに決められた書類を提出し、受講料を納入してください。</p> <p>③受講料の納入確認後、教材及び初回の通信課題を配布します。</p> <p>④自宅学習・・・通信課程 学習進度計画に従い、定められた科目を自宅で学習していただきます。テキストに沿って自己学習し、提出期日までに課題を提出します。評価基準を満たさない場合、再提出が必要になります。</p> <p>⑤スクーリング・・・決められた日に出席して講義演習を受講します。(介護過程Ⅲ 45 時間、医療的ケア 16 時間) スクーリングの全日程に出席した受講者について、担当教員がその成績を評価します。</p> <p>⑥修了証明書の発行・・・全科目の履修認定、修了評価を受けた方には「修了証明書」を発行します。また申請された方には介護福祉士国家試験受験の</p>

	際に必要な「実務者研修修了証明書」を発行します。	
④費用 受講料（テキスト代含む）	①無資格 ②初任者研修修了者 ③訪問介護員 2 級修了者 ④訪問介護員 1 級修了者 ⑤介護職員基礎研修修了者	121,440 円 98,384 円 96,800 円 52,844 円 29,436 円
⑤科目ごとのシラバス（授業概要）	添付書類をご覧ください。	
⑥講師及びスタッフ	<p>専任教員 吉田 恵(介護福祉士) 藤井 陽平(介護福祉士) 佐々木 康裕 (介護福祉士) 木村 喜代美 (介護福祉士)</p> <p>担当科目：人間の尊厳と自立・社会の理解 I II・介護の基本 I II・コミュニケーション技術・生活支援技術 I II・介護過程 I II III・ こころとからだのしくみ I II・発達と老化の理解 I II・認知症の理解 I II・ 障害の理解 I II・</p> <p>担当教員 大久保 尚弥 (看護師) 担当科目：医療的ケア</p> <p>事務職員 行徳 秀和</p>	
⑦使用する教材	<p>介護福祉士養成 実務者研修テキスト 全9巻 (一般財団法人長寿社会開発センター発行)</p> <p>第1巻 人間の尊厳と自立/社会の理解 I・II 第2巻 介護の基本 I・II 第3巻 コミュニケーション技術 第4巻 生活支援技術 I・II 第5巻 介護課程 I・II・III 第6巻 こころとからだのしくみ I・II 第7巻 発達と老化の理解 I・II 認知症の理解 I・II 第8巻 障害の理解 I・II 第9巻 医療的ケア 介護職員等による喀痰吸引・ 経管栄養</p>	
養成課程に関する情報		
①卒業者の延べ人数	<p>令和6年4月現在 104名 (H30.2 6名/R1.8 10名/R1.12 10名 R2.12 14名/R3.12 29名/R4.12 17名 R5.12 18名)</p>	

社会福祉法人幸清会 実務者研修 通信科 学則

第1条（目的）

社会福祉法人幸清会 実務者研修 通信科（以下、「本課程」という。）は、社会福祉士及び介護福祉士法にもとづき介護福祉士を目指す実務経験者等に対し、介護福祉士試験の受験時に受講が義務付けられた研修を実施することにより、必要な知識・技能を習得させることを目的とする。

第2条（名称・所在地）

本課程の名称は、社会福祉法人幸清会 実務者研修 通信科とする

本課程の所在地は、北海道虻田郡洞爺湖町川東 80-16 財田温泉 高齢者ケア研修センター 財田の杜にて実施する。

第3条（課程学科・修業年限・定員）

本課程の課程学科、修業年限、定員は次の通りとする。

課程名：介護福祉士実務者研修 通信科

修業年限：6ヶ月

定員：30名

2 本課程の在籍期間は2年をこえることはできない。

第4条（授業日及び休業日）

本課程の休業日は次の通りとする。

- ① 日曜日
 - ② 国民の祝日に関する法律に定める日
 - ③ 年末年始（12月29日より1月3日）
- 2 スクーリングの日程については別に定める。

第5条（養成課程・授業）

	介護福祉士 実務者研修	通信教育に よる授業	面接授業 (介護過程Ⅲ)	面接授業 (医療的ケア)
無資格者	466時間	405時間	45時間	16時間
正看護師	400時間	355時間	45時間	免除
介護職員初任者研修修了者	336時間	275時間	45時間	16時間
訪問介護員1級取得者	111時間	50時間	45時間	16時間
訪問介護員2級取得者	336時間	275時間	45時間	16時間
訪問介護員3級取得者	436時間	375時間	45時間	16時間
介護職員基礎研修修了者	66時間	50時間	なし	16時間

第6条（運営組織）

- (1) 課程責任者 1名
- (2) 専任教員 1名以上

- (3) 非常勤講師 (専任教員が多数の場合、必要としない)
- (4) 事務職員 1名
 - 2 課程責任者は本課程を代表し、校務全般を統括する。
 - 3 専任教員及び非常勤講師は、入所者の教育をつかさどる。
 - 4 事務職員は事務に従事する。

第7条 (入学・時期・方法)

本課程に入学できる者は、以下の者とする。

- ① 現に3年以上の実務経験を有し、介護福祉士試験のために入所を希望するもの
- ② 将来、介護福祉士試験を受験するために入所を希望するもの
- ③ 介護福祉士は受験しないが、介護に関心があるために入所を希望するもの
 - 2 入学時期は毎年度7月・10月・1月・4月とする。
 - 3 入学志願者は指定の期日までに本校所定の書類に必要事項を記入し、応募する。先着順に受付し、定員に達した場合は締め切りとする。ただし、若干名の待機者を設ける。受付終了後、期日までに決められた書類を提出し、受講料を納入しなければならない。

入学を許可されたものは以下の受講料を事前に支払わなければならない。受講料以外には指定教材(以下:テキスト)が必要となるが、希望する者には、テキスト代金を実費で徴収する。

法人職員

	無資格者	初任者研修修了者 訪問介護員2級取得者	正看護師	訪問介護員 1級取得者	訪問介護員 3級取得者	介護職員 基礎研修修了者
受講料	88,800円	66,000円	66,000円	33,000円	77,000円	18,700円

法人職員以外

	無資格者	初任者研修修了者 訪問介護員2級取得者	正看護師	訪問介護員 2級取得者	訪問介護員 3級取得者	介護職員 基礎研修修了者
受講料	110,000円	88,000円	88,000円	49,500円	99,000円	27,500円

第8条 (休学・退学)

休学の希望があった場合は、次回の研修に引き継ぐことができる。

退学の希望があった場合は、面接相談の上、認めることができる。但し、その場合、受講料は返金しないものとする。

第9条 (教育課程及び授業時間数、修了の認定)

修了に必要な授業科目及び時間は、「別表1」の通りとする。

2 一定の内容・質、時間数が担保されているものを修了したもので、科目単位での履修認定を希望する者の履修必要科目は「別表2」の通りとする。

3 修了に必要な科目を履修した者に対して修了証を授与する。

第10条（履修方法）

通信授業は、無資格者の場合 466 時間、訪問介護員 2 級取得者の場合 336 時間分の学習を決められたスケジュール表に基づいて各々テキストで学び、定められた期間内に、課題及びレポートを提出し、添削指導を受けなければならない。

面接授業は、本課程の教室及び本課程が指定する施設において実施する。

「介護過程Ⅲ」を 7 日間で 45 時間、「医療的ケア演習」を 2 日間で 16 時間の合計 9 日間受講することとする。欠席は認めない。万が一欠席した場合、又は通信課程の提出遅れ等により受講できない場合は、有料（1 時間あたり 3,600 円）にて補講を行うか、次回の研修で該当講義を受講（但し、定員に空きがある場合に限る：無料）して修了とする。

受講生は学習内容について相談、質疑等がある場合は、電子メールや電話によって行うことができる。

第11条（評価方法）

学習の達成度は、各科目の課題を期日までに提出し、70 点以上を合格とする。

ただし医療的ケアの知識については 90 点以上を合格とする。

不合格の場合は、追試として再び課題及びレポートを提出する。医療的ケアの知識については、再試験とし、89 点以下の場合は、基本研修（演習）を受講することはできない。相談がある場合は事務局が話を聞き、担当教員へ連絡する。

面接授業については、介護過程Ⅲは最後に考査の時間を設ける。医療的ケアの演習はそれぞれの演習内容を 5 回以上ずつ体験し講師が指導評価を行う。尚、医療的ケアの演習については講師が評価項目について「手順どおりに実施できている」と評価することで合格とする。

第12条（懲戒）

課程責任者は、学生の本分に反する行為があったと認められるときは、これに懲戒処分を行うことがある。

2 懲戒は、訓告、及び退学とする。

3 前項の退学処分は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

- (1) 性行が不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当な理由がなく、課題提出状況の極めて悪い者又は出席が常でない者
- (4) スクーリング時に秩序を乱す等、学生としての本分に反した者

附則

この規程は、平成 29 年 9 月 1 日より施行する。

この規程は、第 3 条の一部、第 7 条の一部を改変し、令和 2 年 7 月 1 日より施行する。

この規程は、第 5 条、第 10 条の時間数、及び第 9 条の別表 1、2 を改変し、令和 4 年 7 月 1 日より施行する。

教育用機械機器及び模型の目録

社会福祉法人幸清会 実務者研修 通信科

備品名		個数	備考
必置備品			
実習用モデル人形		1	
人体骨格模型		1	
成人用ベッド		2	
移動用リフト	床走行式	1	
スライディングボード		1	
車いす		3	
簡易浴槽		1	
ストレッチャー		1	
排せつ用具	ポータブルトイレ	1	
	尿器等	2	
歩行補助つえ		1	
盲人安全つえ	普通用（携帯用）	1	
視聴覚機器	テレビ	1	
	パソコン(DVD付)	1	
	プロジェクター	1	
障害者用調理器具		1	
障害者用食器		1	
その他の主な備品			
和式布団一式		1	
吸引装置一式		2	
経管栄養用具一式		2	
処置台又はワゴン		1	
吸引訓練モデル		2	共用
経管栄養訓練モデル			
心肺蘇生訓練用機材一式		1	
人体解剖模型		1	

社会福祉法人幸清会 実務者研修通信科 学習進度計画（無資格者）

科目名（時間数）	学習時間 合計	7月					8月					9月					10月					11月					12月				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人間の尊厳と自立	15時間	→ 20日					→ 15日																								
社会の理解 I	15時間						→ 15日					→ 10日																			
社会の理解 II	90時間						→ 15日					→ 10日																			
介護の基本 I	30時間	→ 20日					→ 15日																								
介護の基本 II	60時間	→ 20日					→ 15日																								
コミュニケーション技術	60時間						→ 15日					→ 10日																			
生活支援技術 I	60時間											→ 20日					→ 15日														
生活支援技術 II	90時間											→ 20日					→ 15日														
介護課程 I	60時間	→ 20日					→ 15日																								
介護課程 II	75時間						→ 15日					→ 10日																			
介護課程 III（スクーリング）	45時間											4 4 4 3 4 3					4 3 3 4 3					3 4									
こころとからだのしくみ I	60時間											→ 20日					→ 15日														
こころとからだのしくみ II	180時間																→ 10日					→ 30日									
発達と老化の理解 I	30時間											→ 20日					→ 15日														
発達と老化の理解 II	60時間																→ 15日					→ 10日									
認知症の理解 I	30時間											→ 20日					→ 15日														
認知症の理解 II	60時間																→ 15日					→ 10日									
障害の理解 I	30時間											→ 20日					→ 15日														
障害の理解 II	60時間																→ 15日					→ 10日									
医療的ケア	150時間																→ 10日					→ 30日									
医療的ケア演習（スクーリング）	16時間																					4 4					4 4				

※上記の色付き以外の科目は通信とする。

※単位のない数字の単位は時間とする

日程は 通信課題配布（送付） → 自己学習の上、課題作成し、締切までに提出 → 採点し、採点結果を1か月以内に返送

社会福祉法人幸清会 実務者研修通信科 学習進度計画（ヘルパー2級修了者）

科目名（時間数）	学習時間 合計	7月					8月					9月					10月					11月					12月				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
人間の尊厳と自立	15時間																														
社会の理解 I	15時間																														
社会の理解 II	90時間					20日	→	15日																							
介護の基本 I	30時間																														
介護の基本 II	60時間																														
コミュニケーション技術	60時間					20日	→	15日																							
生活支援技術 I	60時間																														
生活支援技術 II	90時間																														
介護課程 I	60時間																														
介護課程 II	75時間					20日	→	15日																							
介護課程 III（スクーリング）	45時間																														
こころとからだのしくみ II	180時間																														
発達と老化の理解 I	30時間																														
発達と老化の理解 II	60時間																														
認知症の理解 I	30時間																														
認知症の理解 II	60時間																														
障害の理解 I	30時間																														
障害の理解 II	60時間																														
こころとからだのしくみ I	60時間																														
医療的ケア	150時間																														
医療的ケア演習（スクーリング）	12時間																														

※上記の色付き以外の科目は通信とする。

※単位のない数字の単位は時間とする

日程は 通信課題配布（送付） → 自己学習の上、課題作成し、締切までに提出 → 採点し、採点結果を1か月以内に返送

社会福祉法人幸清会 実務者研修通信科 学習進度計画（初任者研修修了者）

科目名（時間数）	学習時間 合計	7月					8月					9月					10月					11月					12月					
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
人間の尊厳と自立	15時間																															
社会の理解 Ⅰ	15時間																															
社会の理解 Ⅱ	90時間	→ 20日					→ 15日																									
介護の基本 Ⅰ	30時間																															
介護の基本 Ⅱ	60時間	→ 20日					→ 15日																									
コミュニケーション技術	60時間	→ 20日					→ 15日																									
生活支援技術 Ⅰ	60時間																															
生活支援技術 Ⅱ	90時間																															
介護課程 Ⅰ	60時間																															
介護課程 Ⅱ	75時間	→ 20日					→ 15日																									
介護課程 Ⅲ（スクーリング）	45時間																															
こころとからだのしくみ Ⅱ	180時間																															
発達と老化の理解 Ⅰ	30時間						→ 15日					→ 10日																				
発達と老化の理解 Ⅱ	60時間						→ 15日					→ 10日																				
認知症の理解 Ⅰ	30時間																															
認知症の理解 Ⅱ	60時間						→ 15日					→ 10日																				
障害の理解 Ⅰ	30時間																															
障害の理解 Ⅱ	60時間						→ 15日					→ 10日																				
こころとからだのしくみ Ⅰ	60時間																															
医療的ケア	150時間																															
医療的ケア演習（スクーリング）	12時間																															
																											4	4	4	4		

※上記の色付き以外の科目は通信とする。

※単位のない数字の単位は時間とする

日程は 通信課題配布（送付） → 自己学習の上、課題作成し、締切までに提出 → 採点し、採点結果を1か月以内に返送

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 人間の尊厳と自立		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 5時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間の尊厳と自立に関わる下記項目について学ぶ。</p> <p>○尊厳の保持を理解する。</p> <p>○自立・自律の支援を理解する。</p> <p>○ノーマライゼーションを理解する。</p> <p>○利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第1巻 人間の尊厳と自立『第1章 人間の尊厳と自立』</p> <p>実務者研修テキスト第1巻 人間の尊厳と自立『第2章 利用者の権利擁護』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)		

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 社会の理解 I		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 5時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい] 介護保険制度に関わる下記項目について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護保険制度の体系、目的を理解する。 ○介護保険制度のサービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担を理解する。 ○介護保険制度の専門職の役割等を理解する。 ○介護保険の実施状況と今後の課題を理解する。 <p>[授業全体の内容の概要] ○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 <テキスト該当ページ> 実務者研修テキスト第1巻 社会の理解 I 『第1章 介護保険制度』</p> <p>[授業終了時の達成課題] ○介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)		

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 社会の理解Ⅱ		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 30時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○生活者、生活における適応技能について理解する。</p> <p>○家族、地域、社会との関連から生活や福祉をとらえる。</p> <p>○社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得する。</p> <p>○障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解する。</p> <p>○成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関する諸制度の概要を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第1巻 社会の理解Ⅱ『第1章 生活と生活のしくみ』</p> <p>実務者研修テキスト第1巻 社会の理解Ⅱ『第2章 地域共生社会の実現に向けた制度や施策』</p> <p>実務者研修テキスト第1巻 社会の理解Ⅱ『第3章 社会保障制度』</p> <p>実務者研修テキスト第1巻 社会の理解Ⅱ『第4章 障害福祉』</p> <p>実務者研修テキスト第1巻 社会の理解Ⅱ『第5章 介護実践に関連する制度』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○家族、地域、社会との関連から生活や福祉をとらえることができる。</p> <p>○地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を修得している。</p> <p>○社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を修得している。</p> <p>○障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</p> <p>○成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関する制度の概要を理解している。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本 I		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○<u>介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解する。</u></p> <p>○<u>個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、<u>尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開のプロセス等を理解する。</u></u></p> <p>○<u>介護福祉士の倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第2巻 介護の基本 I 『第1章 介護福祉士の役割と機能』</p> <p>実務者研修テキスト第2巻 介護の基本 I 『第2章 尊厳の保持と自立に向けた介護』</p> <p>実務者研修テキスト第2巻 介護の基本 I 『第3章 介護福祉士の倫理』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲・義務等を理解している。</p> <p>○個別ケア、ICF(国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、<u>尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。</u></p> <p>○<u>介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、遵守している。</u></p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付			[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護の基本Ⅱ		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握する。 ○チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、<u>介護実践における連携</u>に関する知識を修得する。</p> <p>○リスクの分析と事故防止、感染管理等、<u>介護における安全確保に関する知識</u>を修得する。 ○<u>介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策</u>に関する知識を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 <テキスト該当ページ> 実務者研修テキスト第2巻 介護の基本Ⅱ『第1章 介護を必要とする人の生活の理解と支援』 実務者研修テキスト第2巻 介護の基本Ⅱ『第2章 介護実践における連携』 実務者研修テキスト第2巻 介護の基本Ⅱ『第3章 介護における安全の確保とリスクマネジメント』 実務者研修テキスト第2巻 介護の基本Ⅱ『第4章 介護従事者の安全』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ○チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を修得している。 ○リスクの分析と事故防止、感染管理等、<u>介護における安全確保に関する知識</u>を修得している。 ○<u>介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策</u>に関する知識を修得している。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付			[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) コミュニケーション技術		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○介護におけるコミュニケーション技術の基本を理解する。</p> <p>○利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を理解する。</p> <p>○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を理解する。</p> <p>○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化(介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション)の技法を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第3巻 コミュニケーション技術『第1章 利用者・家族とのコミュニケーション』</p> <p>実務者研修テキスト第3巻 コミュニケーション技術『第2章 利用者の機能に応じたコミュニケーション』</p> <p>実務者研修テキスト第3巻 コミュニケーション技術『第3章 介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○本人・家族との支援関係を構築し、意志決定を支援することができる。</p> <p>○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。</p> <p>○チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ、フォロワーシップ等)に関する知識を理解し、活用できる。</p> <p>○状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術 I		授業の種類 (通信 ・授業・演習)	授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解する。</p> <p>○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解する。</p> <p>○介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を理解する。</p> <p>○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第4巻 生活支援技術 I 『第1章 生活支援とICF』</p> <p>実務者研修テキスト第4巻 生活支援技術 I 『第2章 ボディメカニクスによる介護』</p> <p>実務者研修テキスト第4巻 生活支援技術 I 『第3章 生活支援技術の基本と福祉用具の活用』</p> <p>実務者研修テキスト第4巻 生活支援技術 I 『第4章 環境整備』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○生活支援におけるICFの意義と枠組みを理解している。</p> <p>○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。</p> <p>○自立に向けた介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。</p> <p>○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 (<u>通信</u> ・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 30時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術</p> <p>○<u>移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・終末期の介護について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行えるようにする。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第4巻 生活支援技術Ⅱ『第1章 心身の状態に合わせた生活支援技術』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○以下について利用者の心身の状態に合わせた自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。</p> <p>○<u>移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・終末期の介護について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。</u></p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付			[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅰ		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○<u>介護過程の基礎的知識</u>(目的、意義、展開等)を理解する。</p> <p>○<u>介護過程を踏まえ、目標に沿って展開し</u>、計画的に介護を行えるようにする。</p> <p>○<u>介護過程を展開し、チームでアプローチするための情報共有の方法</u>、各職種の役割を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第5巻 介護過程Ⅰ 『第1章 介護課程の基礎知識』</p> <p>実務者研修テキスト第5巻 介護過程Ⅰ 『第2章 介護課程の展開』</p> <p>実務者研修テキスト第5巻 介護過程Ⅰ 『第3章 介護課程とチームアプローチ』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○介護過程の目的、意義、展開等を理解している。</p> <p>○介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。</p> <p>○チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付			[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅱ		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 25時間	配当学年・時期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○利用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、<u>介護過程の展開の実際</u>について理解する。</p> <p>○<u>観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等</u>について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第5巻 介護過程Ⅱ 『第1章 介護課程の展開の実際』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付			[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 介護過程Ⅲ		授業の種類 (通信・授業・ 演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数 7回	時間数 45時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○<u>介護過程の展開の実際</u>を多様な事例を展開し、介護過程を展開させるとともに、知識、技術を総合的に活用した分析力、応用力を評価する。</p> <p>○<u>介護技術の評価</u>(介護技術の原理・原則の修得・実践とともに、について、知識、技術を総合的に活用した分析力、応用力を評価する。)</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○介護過程の基礎知識と応用</p> <p>○演習(事例を用いたグループワーク・ロールプレイ)</p> <p>○テキスト・プリントの事例に基づいた介護技術の評価</p> <p>○試験実施、解説 <テキスト該当ページ> 実務者研修テキスト第5巻 介護過程Ⅲ 『第1章 介護過程の展開の実践』 実務者研修テキスト第5巻 介護過程Ⅲ 『第2章 介護技術の評価』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。</p> <p>○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等)を提供できる。</p> <p>○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。</p> <p>○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針]</p> <p>【介護過程の展開】</p> <p>・1回目(7時間) 介護過程の基礎知識と応用(ケアプランとサービス計画に関する基礎的理解、居宅サービス計画・訪問介護計画・通所介護計画等とサービスの関係)</p> <p>・2～5回目(各7時間) 演習(事例を用いたグループワーク・ロールプレイ)</p> <p>【介護技術の評価】</p> <p>・6回目(7時間) テキストの事例に基づいた介護技術の評価</p> <p>【知識等の習得度の評価】</p> <p>・7回目(3時間) 試験実施、解説</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを配布		[評価の方法および基準] 実技試験 70点以上で合格 筆記試験 70点以上で合格 実技・筆記試験両方の合格により科目の修了を認定する。 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)		

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみ I		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第6巻 こころとからだのしくみ I</p> <p>『第1章 介護に関係したからだのしくみの基礎的な理解』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付			[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 (通信)・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 60時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○人間の心理に基づく基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得する。</p> <p>○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、<u>人体の構造と機能</u>についての基本的な知識を修得する</p> <p>○<u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等を理解する。(留意点:移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・睡眠・終末期の介護)</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第8巻 こころとからだのしくみⅡ 『第1章 人間の心理』</p> <p>実務者研修テキスト第8巻 こころとからだのしくみⅡ 『第2章 人体の構造と機能』</p> <p>実務者研修テキスト第8巻 こころとからだのしくみⅡ 『第3章 身体の仕組み、心理、認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント、連携等の留意点』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。</p> <p>○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。</p> <p>○身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)		

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解 I		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○老化に伴う心の変化と日常生活への影響を理解する。</p> <p>○老化に伴うからだ(身体的機能)の変化と日常生活への影響を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第7巻 発達と老化の理解 I 『第1章 老化に伴うこころの変化』</p> <p>実務者研修テキスト第7巻 発達と老化の理解 I 『第2章 老化に伴う身体の変化』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</p> <p>○老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付			[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○人間の成長と発達の定義、発達段階、発達課題について理解する。</p> <p>○老年期の発達課題、心理的な課題(老年化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解する。</p> <p>○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第7巻 発達と老化の理解Ⅱ 『第1章 人間の成長・発達』</p> <p>実務者研修テキスト第7巻 発達と老化の理解Ⅱ 『第2章 高齢期の発達課題、心理的な課題』</p> <p>実務者研修テキスト第7巻 発達と老化の理解Ⅱ 『第3章 高齢者に多い症状と疾病、支援の留意点』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。</p> <p>○老年期の発達課題、心理的な課題(老年化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等)と支援の留意点について理解している。</p> <p>○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付			[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解 I		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解する。</p> <p>○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。</p> <p>○認知症の人との関わり方・支援の基本を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第7巻 認知症の理解 I 『第1章 認知症ケアの理念』</p> <p>実務者研修テキスト第7巻 認知症の理解 I 『第2章 認知症による生活上の障害』</p> <p>実務者研修テキスト第7巻 認知症の理解 I 『第3章 認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。</p> <p>○認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</p> <p>○認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付			[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○<u>認知症を医学的側面から見て理解する。</u></p> <p>○<u>認知症の人や家族への支援の実際を理解する。</u></p> <p>○地域におけるサポート体制を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第7巻 認知症の理解Ⅱ 『第1章 医学的側面から見た認知症の理解』</p> <p>実務者研修テキスト第7巻 認知症の理解Ⅱ 『第2章 認知症の人への支援の実際』</p> <p>実務者研修テキスト第7巻 認知症の理解Ⅱ 『第3章 認知症ケアの地域サポート体制』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○代表的な認知症(若年性認知症を含む)の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。</p> <p>○認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</p> <p>○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付			[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解 I		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 10時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解する。</p> <p>○障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。</p> <p>○障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第8巻 障害の理解 I 『第1章 障害者福祉の理念』</p> <p>実務者研修テキスト第8巻 障害の理解 I 『第2章 障害の定義、生活上の困難と心理・行動』</p> <p>実務者研修テキスト第8巻 障害の理解 I 『第3章 障害児・者と家族との関わり・支援の基本』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。</p> <p>○障害(身体・知的・精神・発達障害・難病等)による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</p> <p>○障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)		

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 障害の理解Ⅱ		授業の種類 (通信・授業・演習)	授業担当者 吉田・藤井・木村・ 佐々木・杉谷・寺澤・河 田
授業の回数	時間数 20時間	配当学年・時期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○障害を医学的側面からみて理解する。</p> <p>○障害児者や家族への支援の実際について理解する。</p> <p>○地域におけるサポート体制を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。</p> <p><テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第8巻 障害の理解Ⅱ 『第1章 医学的側面から見た障害の理解』</p> <p>実務者研修テキスト第8巻 障害の理解Ⅱ 『第2章 障害の特性に応じた支援の実際』</p> <p>実務者研修テキスト第8巻 障害の理解Ⅱ 『第3章 障害者の地域サポート体制』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を修得している。</p> <p>○障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</p> <p>○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>			
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 70点以上で合格 (70点未満の者は再度、試験・評価を行う)	

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 医療的ケア		授業の種類 (通信・授業・演習)		授業担当者 大久保 尚弥
授業の回数	時間数 50時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○医療的ケア(喀痰吸引、経管栄養等)に必要な基礎知識を修得する。 ○<u>喀痰吸引を安全・適切に実施するために必要な基礎知識を修得する。</u> ○<u>経管栄養を安全・適切に実施するために必要な基礎知識を修得する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>【通信】</p> <p>○テキストを精読し、各自の理解度を深めた上で、自宅演習問題を解答させ、評価する。 <テキスト該当ページ></p> <p>実務者研修テキスト第9巻 医療的ケア 基礎知識編 『第1章 人間と社会』 実務者研修テキスト第9巻 医療的ケア 基礎知識編 『第2章 保健医療制度とチーム医療』 実務者研修テキスト第9巻 医療的ケア 基礎知識編 『第3章 安全な療養生活』 実務者研修テキスト第9巻 医療的ケア 基礎知識編 『第4章 清潔保持と感染予防』 実務者研修テキスト第9巻 医療的ケア 基礎知識編 『第5章 健康状態の把握』 実務者研修テキスト第9巻 医療的ケア 実践編 『第1章 高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」』 実務者研修テキスト第9巻 医療的ケア 実践編 『第2章 高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」実施手順』 実務者研修テキスト第9巻 医療的ケア 実践編 『第3章 高齢者および障害児・者の「経管栄養」』 実務者研修テキスト第9巻 医療的ケア 実践編 『第4章 高齢者および障害児・者の「経管栄養」実施手順』</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p>				
[使用テキスト] 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付・配布		[評価の方法および基準] 演習問題による添削 90点以上で合格		

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 医療的ケア		授業の種類 (通信・授業・ 演習)		授業担当者 大久保 尚弥
授業の回数 2回	時間数 演習:16時間	配当学年・時期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○喀痰吸引を安全・適切に実施するための必要な手順を演習により修得する。 ○経管栄養を安全・適切に実施するための必要な手順を演習により修得する。 ○救急蘇生法を安全・適切に実施するために必要な基礎知識を修得し、実際に実施する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>【演習】</p> <p>○喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認 ○シミュレーターによる喀痰吸引の実技演習(口腔、鼻腔、気管カニューレ内部を各5回以上) ○経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認 ○シミュレーターによる経管栄養の実技演習(胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養を各5回以上) ○救急蘇生法演習(1回以上)</p> <p>[授業終了時の達成課題]</p> <p>○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針]</p> <p>・1回目(8時間) 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認、シミュレーターによる実技演習</p> <p>・2回目(8時間) 喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認、シミュレーターによる実技演習(1回目の続き) 経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認、シミュレーターによる実技演習 救急蘇生法演習</p>				
<p>[使用テキスト]</p> <p>実務者研修テキスト その他、適宜プリントを送付・配布</p>		<p>[評価の方法および基準]</p> <p>【演習】</p> <p>・喀痰吸引 口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部それぞれのシミュレーター演習を5回以上実施し、指導者により「手順どおりにできている」との判定で合格とする。</p> <p>・経管栄養 胃ろう又は腸ろう・経鼻、それぞれのシミュレーター演習を5回以上、指導者により「手順どおりにできている」との判定で合格とする。</p> <p>※通信・演習(喀痰吸引・経管栄養)、両方の合格により科目の修了を認定する。</p>		

介護過程Ⅲ・医療的ケア 授業構成

日数	日別授業構成		講習時限	時間別授業構成						
	(教育に含むべき内容)			(到達目標)	授業概要					
1 日目	介護過程の展開の実際	多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識、技術を総合的に活用し分析力・応用力を評価する	1	60	実務者研修過程で学んだ知識・技術を確実に習得し活用できる	介護過程Ⅰの復習				
			2	60		介護過程Ⅱの復習				
			3	60		関係する資料から利用者情報を読み解く				
			4	60		ケアプラン(1表～5表)の読み取り方				
			5	60		事例を基にケアプランから利用者情報を読み解く				
			6	60		知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的なアセスメントができる	インテーク・アセスメントの方法			
			2 日目				7	60	アセスメント情報から利用者像を把握するグループワーク	
							8	60	フェイスシート・アセスメントシートの作成	
			3 日目	介護技術の評価		介護技術の原理原則を習得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力・応用力を評価する	9	60	知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な計画の立案ができる	目標設定の視点と方法
							10	60		介護計画書・手順書の作成
11	60	ボディメカニクスの原理・原則								
12	60	介護現場でのボディメカニクス								
13	60	寝具の整え方(シーツの整え方)								
14	60	体位・体位変換(床上での水平・上方移動含む)								
15	60	移乗の介助(一般的な移乗介助)								
16	60	移乗の介助(体格差のある場合)(スライディングボード含む)								
17	60	移乗の介助(福祉機器を使用した移乗)(ホイストリフト等)								
18	60	排泄の介助(ポータブルトイレ)								
4 日目			19	60	【到達目標1】知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な実施ができる 【到達目標2】知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる	排泄の介助(差し込み便器・尿器)				
			20	60		排泄の介助(おむつ交換・パッド含む)				
			21	60		移動の介助(歩行介助・杖歩行介助)				
			22	60		移動の介助(車いす介助)				
			23	60		着脱の介助(椅座位・端座位)				
			24	60		着脱の介助(臥位)				
			25	60		食事の介助(椅座位・端座位・半座位)				
			5 日目	介護技術の評価		介護技術の原理原則を習得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力・応用力を評価する	26	60	【到達目標1】知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な実施ができる 【到達目標2】知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる	食事の介助(臥位)
							27	60		口腔清潔の介助
							28	60		入浴の介助
29	60	入浴・清潔の介助(足浴・腕部清拭)								
6 日目	介護技術の評価	多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識、技術を総合的に活用し分析力・応用力を評価する	30	60	【到達目標1】知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な実施ができる 【到達目標2】知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる	清潔の介助(全身清拭)				
			31	60		介護福祉士の実技試験とキャリア段位制度				
			32	60		「起居→排泄」の介助、評価				
			33	60		「臥位→入浴(清拭)」				
			34	60		「起居→通所施設への送り出し」の介助、評価				
			35	60		「椅座位→口腔ケア」の介助、評価				
			36	60		「椅座位→食事」の介助、評価				
			37	60		「椅座位→就寝」の介助、評価				
			38	60		「おむつ交換→バイタルチェック」の介助、評価				
			7 日目	介護過程の展開の実際		多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識、技術を総合的に活用し分析力・応用力を評価する	39	60	介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、多職種、他機関との連携を行うことができる	介護現場でのヒヤリハット、事故と対応
40	60	ヒヤリハット報告書の作成								
41	60	モニタリングの視点								
42	60	6ヶ月後の事例・ケアプラン第5表から経過を観察する視点(グループワーク)、モニタリング報告書を作成する								
43	60	知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的なモニタリングができる			目標の達成度、利用者の満足度等についてロールプレイ					
44	60	知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護計画の見直しができる			再計画の目標設定(今後の新たな課題)					
45	60	知識等の習得度の評価								
8 日目	演習	喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)	1	60	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する	口腔内の喀痰吸引(通常手順)				
			2	60		口腔内の喀痰吸引(通常手順)				
			3	60		口腔内の喀痰吸引(レスピレーター装着者)				
			4	90		鼻腔内の喀痰吸引(通常手順)				
			5	60		鼻腔内の喀痰吸引(レスピレーター装着者)				
			6	90		気管カニューレ内部の喀痰吸引(通常手順)				
9 日目	演習	経管栄養(基礎的知識・実施手順)	7	60	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する	気管カニューレ内部の喀痰吸引(レスピレーター装着者)				
			8			演習予備時間				
			9							
			10	60		経管栄養【胃ろう・腸ろう】(滴下)				
			11	60		経管栄養【胃ろう・腸ろう】(滴下)				
			12	60		経管栄養【胃ろう・腸ろう】(半固形)				
			13	60		経管栄養【経鼻経管栄養】				
			14	60		経管栄養【経鼻経管栄養】				
			15	60		演習予備時間				
			16	60		救急蘇生法				

介護技術の評価

医療的ケアの評価

医療的ケア

講師:大久保 尚弥

財田の杜 2階研修室 (時期:12月/6月)定員5名×2回

	時間割	内容	到達目標
1	9:00~10:00	喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認	○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。
2	10:10~12:10	シミュレーターによる喀痰吸引の実技演習 (口腔、鼻腔、気管カニューレ内部を各5回以上)	
3			
4			
5	12:50~14:50		
6	15:00~18:00		
7			
8			
1	9:00~11:00		シミュレーターによる喀痰吸引の実技演習 (口腔、鼻腔、気管カニューレ内部を各5回以上) ※前日の続き
2			
3	11:10~12:10	経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認	
4	12:40~14:40	シミュレーターによる経管栄養の実技演習 (胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養を各5回以上)	
5			
6			
7	14:45~16:55		
8	17:00~18:00		救急蘇生法演習(1回以上)